

### 3 野菜類

農薬取締法上、「とうもろこし」「未成熟とうもろこし（スイートコーン）」は野菜類ではなく穀類に含まれるので注意する。ただし、「ヤングコーン」は野菜類に含まれる。

この項目では「野菜類」の作物群に対する登録内容のみを記載している。個別作物に対する登録内容については当該作物のページを参照すること。

#### べと病

##### 防除方法

- 1 収穫後の作物残さは適切に処分する。
- 2 密植を避け、通風をよくする。
- 3 被害株は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。
- 4 発生が見込まれる時期に下記の薬剤を散布する。
  - ・ [ドイツボルドーA](#) <M1> 【500～1000倍 ー／ー】
  - ・ [Zボルドー](#) <M1> 【野菜類（除キャベツ） 500倍 発病前～発病初期／ー】
  - ・ [クプロシールド](#) <M1> 【1000～2000倍 発病前～発病初期／ー】

#### 灰色かび病

##### 留意事項

- 1 薬剤耐性菌が出現しやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

##### 防除方法

- 1 収穫後の作物残さは適切に処分する。
- 2 施設栽培では、施設内が多湿とならないようにする。
- 3 密植を避け、通風をよくする。
- 4 被害株は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。
- 5 発生が見込まれる時期に下記の薬剤を散布する。
  - ・ [エコショット](#) <BM2> 【1000～2000倍 前日／ー】
- 6 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - ・ [カリグリーン](#) <NC> 【野菜類（除トマト、ミニトマト） 800倍 前日／ー】
  - ・ [ハーモメイト水溶剤](#) <NC> 【800倍 前日／ー】

#### うどんこ病

##### 留意事項

- 1 薬剤耐性菌が出現しやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

## 防除方法

- 1 密植を避け、通風をよくする。
- 2 チッソ質肥料の過用を避ける。
- 3 施設内では適度のかん水を行い、過乾を避ける。特に温風暖房を行うところでは注意する。
- 4 被害茎葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。
- 5 発生が見込まれる時期に下記の薬剤を散布する。
  - ・ [サフオイル乳剤](#) <—>  
【野菜類（除いちご、トマト、ミニトマト） 300倍 前日／—】
  - ・ [イオウフロアブル](#) <M2>  
【野菜類（除すいか、かぼちゃ、トマト、ミニトマト、ねぎ、わけぎ、あさつき、いちご） 500～1000倍 発病前～発病初期／—】
- 6 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - ・ [サンクリスタル乳剤](#) <—>  
【野菜類（除なす、トマト、ミニトマト、しゅんぎく） 300～600倍 前日／—】
  - ・ [エコピタ液剤](#) <—>  
【野菜類（除いちご、トマト、ミニトマト、きゅうり、なす） 100倍 前日／—】
  - ・ [カリグリーン](#) <NC>【野菜類（除トマト、ミニトマト） 800～1000倍 前日／—】

## 黒腐病

## 防除方法

- 1 健全な種子を使用する。
- 2 あぶらな科野菜の連作を避ける。
- 3 被害茎葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。
- 4 発生が見込まれる時期に下記の薬剤を散布する。
  - ・ [コサイド3000](#) <M1> 【2000倍 —／—】
  - ・ [Zボルドー](#) <M1> 【野菜類（除キャベツ） 500倍 発病前～発病初期／—】

## 白さび病

## 防除方法

- 1 収穫後の作物残さは適切に処分する。
- 2 あぶらな科野菜の連作を避ける。
- 3 ほ場の排水をよくする。
- 4 密植を避け、通風をよくする。
- 5 被害株は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。
- 6 発生が見込まれる時期に下記の薬剤を散布する。
  - ・ [ジーファイン水和剤](#) <NC> <M1> 【野菜類（除なす） 1000倍 前日／—】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

## 軟腐病

### 防除方法

- 1 ほ場の排水をよくする。
- 2 密植を避け、通風をよくする。
- 3 連作を避ける。
- 4 ヨトウムシ類などの食害昆虫の防除に努める。
- 5 被害株は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。
- 6 発生が見込まれる時期に下記の薬剤を散布する。
  - ・ [コサイド3000](#) <M1> 【2000倍 ー／ー】
  - ・ [ジーファイン水和剤](#) <NC> <M1> 【野菜類（除なす） 1000倍 前日／ー】
  - ・ [クプロシールド](#) <M1> 【1000～1500倍 発病前～発病初期／ー】

## 褐斑細菌病

### 防除方法

- 1 健全な種子や台木および穂木を使用する。
- 2 密植を避け、通風をよくする。
- 3 被害茎葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。
- 4 発生が見込まれる時期に下記の薬剤を散布する。
  - ・ [コサイド3000](#) <M1> 【2000倍 ー／ー】
  - ・ [Zボルドー](#) <M1> 【野菜類（除キャベツ） 500倍 発病前～発病初期／ー】

## 黒斑細菌病

### 防除方法

- 1 健全な種子を使用する。
- 2 あぶらな科野菜の連作を避ける。
- 3 収穫後の作物残さは適切に処分する。
- 4 密植を避け、通風をよくする。
- 5 被害株は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。
- 6 発生が見込まれる時期に下記の薬剤を散布する。
  - ・ [Zボルドー](#) <M1> 【野菜類（除キャベツ） 500倍 発病前～発病初期／ー】

## さび病

### 防除方法

- 1 収穫後の作物残さは適切に処分する。
- 2 連作を避ける。

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- 3 施設栽培では、施設内が多湿とならないようにする。
- 4 被害株は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。
- 5 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - ・ [カリグリーン](#) <NC> 【野菜類（除トマト、ミニトマト） 800倍 前日／—】
  - ・ [ハーモメイト水溶剤](#) <NC> 【800倍 前日／—】

## 斑点細菌病

### 防除方法

- 1 うり科野菜の連作を避ける。
- 2 施設栽培では、施設内が多湿とならないようにする。
- 3 被害株は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。
- 4 発生が見込まれる時期に下記の薬剤を散布する。
  - ・ [コサイド3000](#) <M1> 【2000倍 —／—】
  - ・ [クプロシールド](#) <M1> 【1000～2000倍 発病前～発病初期／—】
  - ・ [Zボルドー](#) <M1> 【野菜類（除キャベツ） 500倍 発病前～発病初期／—】

## アザミウマ類

### 留意事項

- 1 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

### 防除方法

- 1 ほ場内や周辺の除草を徹底する。
- 2 収穫後の作物残さは適切に処分する。
- 3 施設栽培では、開口部に目合いの細かい防虫ネットを展張し、成虫の侵入を防ぐ。
- 4 施設栽培では、栽培終了後にすべて閉め切り、蒸し込むことで殺虫する。
- 5 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - ・ [ポタニガードES](#) <UNF> 【1000倍 発生初期／—】
  - ・ [スワルスキー](#) <—(生)>
    - 【野菜類（露地栽培） 250～500ml／10a（約25000～50000頭） 放飼  
（放飼後の厳冬期の月平均気温が10℃を下回る地域） 発生直前～発生初期／—】
    - 【野菜類（施設栽培） 250～500ml／10a（約25000～50000頭） 放飼  
発生直前～発生初期／—】

## コナジラミ類

### 留意事項

- 1 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

行う。

### 防除方法

- 1 ほ場内や周辺の除草を徹底する。
- 2 収穫後の作物残さは適切に処分する。
- 3 施設栽培では、開口部に目合いの細かい防虫ネットを展張し、成虫の侵入を防ぐ。
- 4 施設栽培では、栽培終了後にすべて閉め切り、蒸し込むことで殺虫する。
- 5 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - ・ [サフオイル乳剤](#) <—>
    - 【野菜類（除いちご、トマト、ミニトマト） 300～500倍 前日／—】
  - ・ [ムシラップ](#) <—> 【500倍 前日／—】
  - ・ [オレート液剤](#) <—> 【野菜類（除いちご） 100～300倍 発生初期（前日）／—】
  - ・ [ボタニガードES](#) <UNF> 【1000倍 発生初期／—】
  - ・ [スワルスキー](#) <—(生)>
    - 【野菜類（施設栽培） 250～500ml／10a（約25000～50000頭） 放飼  
発生直前～発生初期／—】

## アブラムシ類

### 留意事項

- 1 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

### 防除方法

- 1 ほ場内や周辺の除草を徹底する。
- 2 施設栽培では、開口部に目合いの細かい防虫ネットを展張し、成虫の侵入を防ぐ。
- 3 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - ・ [サフオイル乳剤](#) <—>
    - 【野菜類（除いちご、トマト、ミニトマト） 300～500倍 前日／—】
  - ・ [エコピタ液剤](#) <—>
    - 【野菜類（除いちご、トマト、ミニトマト、きゅうり、なす） 100倍 前日／—】
  - ・ [オレート液剤](#) <—> 【野菜類（除いちご） 100倍 発生初期（前日）／—】
  - ・ [粘着くん液剤](#) <—> 【100倍 前日／—】
  - ・ [ボタニガードES](#) <UNF> 【1000倍 発生初期／—】

## コナガ

### 留意事項

- 1 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

## 防除方法

- 1 施設栽培では、開口部に目合いの細かい防虫ネットを展張し、成虫の侵入を防ぐ。
- 2 フェロモンディスペンサーを利用する。3ha以上の集団産地では、コンフューザーV、コナガコンープラス、コナガコンを設置すると発生を抑制できる。
  - ・ [コンフューザーV](#)  
【野菜類 100～200本／10a（41g／100本製剤） 対象作物の栽培全期間】
  - ・ [コナガコンープラス](#)  
【コナガ、オオタバコガ、ヨトウガが加害する農作物等 100～120本／10a（22g／100本製剤） 対象作物の栽培全期間】
  - ・ [コナガコン](#)  
【コナガ、オオタバコガが加害する農作物等 露地：100～110m／10a（100mリール）または200本／10a（20cmチューブ） 加害作物栽培の全期間】
- 3 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - ・ [ゼンターリ顆粒水和剤](#) <11A>  
【野菜類（除キャベツ、はくさい） 1000～2000倍 発生初期（前日）／－】
  - ・ [デルフィン顆粒水和剤](#) <11A>  
【野菜類（除トマト、ミニトマト）1000倍 発生初期（前日）／－】
  - ・ [バシレックス水和剤](#) <11A> 【1000～2000倍 発生初期（前日）／－】
  - ・ [フローバックDF](#) <11A> 【1000～2000倍 発生初期（前日）／－】
  - ・ [ボタニガードES](#) <UNF> 【1000倍 発生初期／－】

## ウリノメイガ

## 防除方法

- 1 ほ場内や周辺の除草を徹底する。
- 2 施設栽培では、開口部に目合いの細かい防虫ネットを展張し、成虫の侵入を防ぐ。
- 3 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - ・ [デルフィン顆粒水和剤](#) <11A>  
【野菜類（除トマト、ミニトマト）1000倍 発生初期（前日）／－】
  - ・ [ゼンターリ顆粒水和剤](#) <11A>  
【うり科野菜類 1000倍 発生初期（収穫前日）／－】
  - ・ [チューンアップ顆粒水和剤](#) <11A>  
【野菜類（除トマト、ミニトマト）3000倍 発生初期（前日）／－】

## オオタバコガ

## 防除方法

- 1 若齢幼虫のうちに防除する。
- 2 施設栽培では、開口部に目合いの細かい防虫ネットを展張し、成虫の侵入を防ぐ。

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

3 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

- ・ [ゼンターリ顆粒水和剤](#) <11A>  
【野菜類（除キャベツ、はくさい） 1000倍 発生初期（前日）／－】
- ・ [デルフィン顆粒水和剤](#) <11A>  
【野菜類（除トマト、ミニトマト）1000倍 発生初期（前日）／－】
- ・ [フローバックDF](#) <11A> 【1000倍 発生初期（前日）／－】

## ヨトウムシ

### 留意事項

- 1 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

### 防除方法

- 1 卵塊や集団になっている幼虫を見つけたらすぐに取り除く。
- 2 若齢幼虫のうちに防除する。
- 3 施設栽培では、開口部に目合いの細かい防虫ネットを展張し、成虫の侵入を防ぐ。
- 4 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - ・ [バシレックス水和剤](#) <11A> 【500倍 発生初期（前日）／－】
  - ・ [エスマルクDF](#) <11A> 【1000倍 発生初期（前日）／－】
  - ・ [フローバックDF](#) <11A> 【1000倍 発生初期（前日）／－】
  - ・ [トアロー水和剤CT](#) <11A>  
【野菜類（除パセリ、えごま(葉)） 500～1000倍 発生初期（前日）／－】
  - ・ [ゼンターリ顆粒水和剤](#) <11A>  
【野菜類（除キャベツ、はくさい） 1000～2000倍 発生初期（前日）／－】

## ハスモンヨトウ

### 留意事項

- 1 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

### 防除方法

- 1 卵塊や集団になっている幼虫を見つけたらすぐに取り除く。
- 2 若齢幼虫のうちに防除する。
- 3 施設栽培では、開口部に目合いの細かい防虫ネットを展張し、成虫の侵入を防ぐ。
- 4 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - ・ [バシレックス水和剤](#) <11A> 【500倍 発生初期（前日）／－】
  - ・ [デルフィン顆粒水和剤](#) <11A>  
【野菜類（除トマト、ミニトマト）1000倍 発生初期（前日）／－】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用时には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- ・ [フローバックDF](#) <11A> 【1000倍 発生初期（前日）／－】
- ・ [ゼンターリ顆粒水和剤](#) <11A>  
【野菜類（除キャベツ、はくさい） 1000倍 発生初期（前日）／－】

## シロイチモジヨトウ

### 留意事項

- 1 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

### 防除方法

- 1 卵塊や集団になっている幼虫を見つけたらすぐに取り除く。
- 2 若齢幼虫のうちに防除する。
- 3 施設栽培では、開口部に目合いの細かい防虫ネットを展張し、成虫の侵入を防ぐ。
- 4 ねぎでは、葉の内部へ潜り込む前に防除する。
- 5 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - ・ [デルフィン顆粒水和剤](#) <11A>  
【野菜類（除トマト、ミニトマト） 1000倍 発生初期（前日）／－】
  - ・ [ゼンターリ顆粒水和剤](#) <11A>  
【野菜類（除キャベツ、はくさい） 1000倍 発生初期（前日）／－】

## タマナギンウワバ

### 防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - ・ [バシレックス水和剤](#) <11A> 【1000倍 発生初期（前日）／－】

## アオムシ

### 防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - ・ [ゼンターリ顆粒水和剤](#) <11A>  
【野菜類（除はくさい、キャベツ） 1000～2000倍 発生初期（前日）／－】
  - ・ [バシレックス水和剤](#) <11A> 【1000～2000倍 発生初期（前日）／－】
  - ・ [トアロー水和剤CT](#) <11A>  
【野菜類（除パセリ、えごま（葉）） 1000～2000倍 発生初期（前日）／－】
  - ・ [フローバックDF](#) <11A> 【1000～2000倍 発生初期（前日）／－】
  - ・ [デルフィン顆粒水和剤](#) <11A>  
【野菜類（除トマト、ミニトマト） 1000倍 発生初期（前日）／－】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

## ハダニ類

### 留意事項

- 1 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

### 防除方法

- 1 育苗時の防除を徹底する。
- 2 ほ場内や周辺の除草を行う。
- 3 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - ・ [サフオイル乳剤](#) <—>
    - 【野菜類（除いちご、トマト、ミニトマト） 300～500倍 前日／—】
  - ・ [ムシラップ](#) <—> 【500倍 前日／—】
  - ・ [エコピタ液剤](#) <—>
    - 【野菜類（除いちご、トマト、ミニトマト、きゅうり、なす） 100倍 前日／—】
  - ・ [ボタニガードES](#) <UNF> 【1000倍 発生初期／—】
  - ・ [スパイカルEX](#) <—(生)>
    - 【100～1250ml／10a(約2000～25000頭) 放飼 発生初期／—】または
    - 【20～3000頭／100株 放飼 発生初期／—】

## チャノホコリダニ

### 留意事項

- 1 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

### 防除方法

- 1 ほ場内や周辺の除草を徹底する。
- 2 摘葉や摘芯後の残さはほ場外に持ち出し、適切に処分する。
- 3 薬剤は新梢部や葉裏を重点に散布する。
- 4 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - ・ [サフオイル乳剤](#) <—>
    - 【野菜類（除いちご、トマト、ミニトマト） 300倍 前日／—】
  - ・ [スワルスキー](#) <—(生)>
    - 【野菜類（施設栽培） 250～500ml／10a(約25000～50000頭) 放飼
    - 発生直前～発生初期／—】

## ナメクジ類

### 防除方法

- 1 収穫後の作物残さは適切に処分する。

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- 2 密植を避け、通風をよくする。
- 3 発生が見込まれる時期に下記の薬剤を散布する。
  - ・ [クプロシールド](#) <M1> 【1000倍 発生前～発生初期／－】
- 4 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - ・ [スラゴ](#) <－>  
【ナメクジ類、カタツムリ類、アフリカマイマイ、ヒメリンゴマイマイが加害する農作物等  
1～5g/m<sup>2</sup> ナメクジ類、カタツムリ類、アフリカマイマイ及びヒメリンゴマイマイの発生あるいは加害を受けた場所または株元に配置 発生時／－】

—MEMO—

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。